

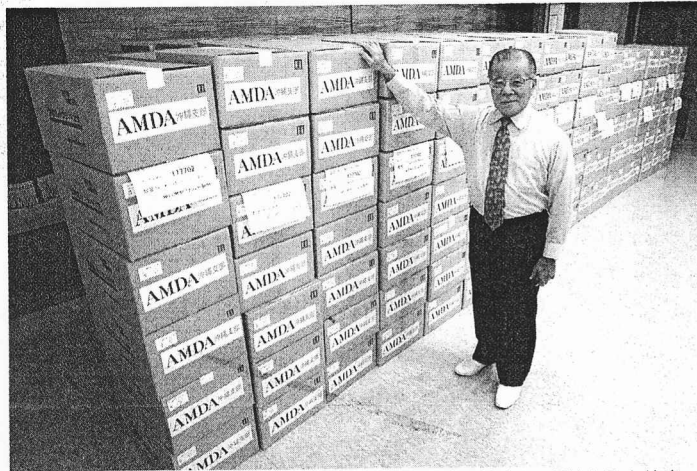
抗生物質など800万円相当

善意の医薬品 被災地に

スマトラ沖地震で AMDA 沖縄支部

スマトラ沖地震救援の縄セントラル病院長)は、同した日本トランスオーシャン航空(JTA)が無償で空輸する。

昨年十二月二十六日のスマトラ沖地震発生後、AMDA沖縄支部は県内の薬品会社などへ、抗生物質や胃腸薬の提供を呼び掛けた。年末年始と重なり当初は反応が鈍かったものの、現地の被災状況が詳しく報道されるにつれ、那覇市の沖縄セントラル病院内の事務局あてに医薬品が続々と集まった。



無償提供された多くの医薬品を前に、薬品会社の協力に感謝する大仲良一・AMDA沖縄支部長(那覇市与儀の沖縄セントラル病院)

被災地へ送られる医薬品は、抗生物質の点滴が一万セット(約三千人分)、同内服薬は約九千三百五十箱(約三万人分)、胃腸薬が約一万五千三百箱。

AMDA沖縄支部は今後、医療関係物資を寄贈するにも、医師や看護師ら人的支援も続行する予定。大仲さんは「災害地活動を希望する医師や看護師、臨床検査技師を沖縄セントラル病院で雇用し、緊急派遣の体制を整えたい」と話した。